平成 31 年 4 月 1 日
くげぬま探求クラブ

会報 くぐひ

第 97 号(春号)

◇ くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる ◇

新任の挨拶

新世話人代表 奥村 誠

この度、世話人代表に選任されました奥村です。日頃、当クラブの運営などについてあまり考えたことがなく、ご指名以来、戸惑っています。自分としては何が出来るのか、何をすべきなのか、自問自答を繰り返す毎日ですが、「くぐひ」の「創立 25 周年記念特集号」やホームページのバックナンバーに掲載されている諸先輩の語録に目を通してみました。

記念特集で塩川さんが書かれた投稿文に、ご自分が世話人になった際の思い出として「探求クラブは定常的な運営組織を持たず、2 年毎に選出された〈世話人〉が運営していく。クラブにはトップを置かず、必要により例会で相談して決めていくという運営方法をとる。その様な趣旨は聞いていたが・・・」という下りがありました。

これを読んで、「世話人」という名称通り、クラブ員の皆様への奉仕をすることが、私の役割であると心得ました。

同じく記念特集で磯川さんの投稿文に設立前の公民館の募集チラシの「地域の仲間と地域のために出来ることを探して心を満たしてみませんか」がきっかけとなり当クラブが設立されたというエピソードを拝見しました。

「くげぬま探求クラブ憲章」の第一条には「私たちは『会社人間から社会人間へ』を目指します」とあります。

会社人間といえば、上下関係のある人間関係と「管理」で束縛された自由のあまり無い社会を思い浮かべます。その会社人間を卒業後の過ごし方には、人によって色々と違いがありますが、「拘束の少ない上下関係のない地域社会にデビューして、その社会に役立つ（貢献する）事をして充実した余生を過ごしたい」と考える人もいます。その様な方達の受け皿になり、地域への貢献をするのが当クラブの第一の使命と考えます。

しかし、それを継続させる上で、当クラブの現在の重要な問題ではないかと思います「メンバーの高齢化」があり、若い方の入会促進が不可欠になっていると考えます。

そのために、地域社会にデビューしたいと考えている当クラブをご存知のない地域の方の目に触れる工夫や施策が必要です。

例えば創立２５周年の行事で実施しました「健康講座」や名前入りジャンパーの野外での着用などは地域に当クラブ存在を周知するのに役立っていると思います。その様な施策・工夫をメンバーの皆様と共に実践していきたいと思います。

一方、地域貢献一色ではなく、メンバーの親睦や健康の維持を図る活動、あるいは当クラブの名称にもなっている「探求」心を育くむ活動は、健康で心豊かな人生を送る上でプラスになる活動であり、それを支える事が第二の使命ではないでしょうか。

次に考えましたのは、私の得意な IT 技術を応用して、世話人の事務処理の効率化を進めたいと思います。皆様のご協力を頂く必要があると思いますのでよろしく願います。

最後になりますが今回、選任されました世話人は副代表の池田修さん、会計担当の嶋村堯敏さん、水野祐作さん、田中力さん、岡林哲夫さんと私を含めての６名です。宜しくお願いいたします。余談になりますが、今回の世話人の皆様は偶然ですが、５名が談話室のメンバーで、日頃より気心の知れた者ばかりという事で、スムースなスタートが出来ると思います。

前世話人から新世話人へ

玉田 英二

この 2 年間、世話人体験をとおして「感じたこと」は、4 人になってしまった世話人同士の意思の疎通が図られ、その結果各自の役割分担が上手く回り、仲間意識が芽生えたことです。また、クラブ内における各種委員会等の活動に参加する機会が多くなり、クラブ経験の豊かな方から中堅で行動力のある方々の考え方や活動を目のあたりに体験できたこと、さらに新会員の面接を担当するなど、多くのクラブ員の方々との交流ができ、皆さんとの距離が縮まったことです。そして、世話人として外部団体へ参加する機会が与えられ、公民館まつり実行委員会では探求クラブの活動が大きく評価されていることに驚くとともに再認識できたり、サークル交歓会では役員として組織の運営や各サークルの内容も理解できるようになったり、人的なつながりも広がりを増したことは有意義な体験となりました。

最後に、これから新世話人になる方に一言「探求クラブは、あらゆることに関して知識豊富な方々が多数いらっしゃいます。この方々の力を活用しない手はないかもしれません！」

米倉 貞敏

伝統ある探求クラブの世話人に選出されたこと心よりお慶び申し上げます。新しい 6 名の侍と 2 年間世話人会を通してお互い良い点を出し合う中で、自分の気がつかなかった能力を引き出してくれます。世話人を楽しんで下さい。

活動の中で嬉しかった事を一つ紹介します。世話人として「くぐひ」の編集に参加出来たことです。集まった原稿を皆さんと推敲してゆくなかで作者の素晴らしさや意外性を知ることが出来ました。中でも野口昌久さんの「やもをの心得」の原稿収集をまかされたことは想い出に残ります。その時は末期癌で入院され原稿を送ったメールが来ましたが、原稿は届きませんでした。しばらくして野口さんの訃報が伝えられました。お通夜にパソコンから遺稿が発見され、天国に召される 10 日前頃に書かれたようです。淡々と綴られており、私もこのような大往生をしたいと感動しました。「くぐひ」91 号（H29.10.1）に掲載されました。

萩原 興成

私の担当業務は「会計」「例会資料取りまとめ」「懇親会段取り」等が主な役割となっています。それぞれに煩雑な業務ではありますが、１回経験すれば慣れてくるのでさほど問題ではないでしょう。しかし、なんでこんなことやらなければいけないのか、とか必要ないと思われる業務も多々存在することも事実で、ホームページと被っているものは割愛してもいいとも思えます。この２年間はけっこう長く感じました、色々な壁にぶち当たりましたが、その壁もなかなか面白かったように思います。世話人とは先輩諸兄の話を聞いたり、それ相応の気遣いは必要ですが、忘れてはならないこととして、正しいと思ったことは、恐れることなく実行することです。安易にスルーしてはいけません。今後皆さんにお願いしたいことは、我々には出来なかったことですが、世話人業務の軽減が必要だと思うので、是非とも業務改革をお願いいたします。

佐伯 浩

世話人としての私の担当は、1 年目は例会の司会を中心に活動しました。途中で欠員 2 名となりましたが、何とかしのぐことができました。2 年目からは下記の業務を担当しました。

1） 毎月最初の公民館稼働日に部屋取りをすること：探求クラブの月例会用、世話人会の会合用
2） 公民館倉庫の管理をすること：各部会の内容物を明記・表示・保管・処分等（棚卸し実施及び更に定期的な活動が必要、特に保管文書の期限設定等）
3） ロッカーの管理をすること：各自の物が勝手に保管されている状態⇒定期的な整備活動が必要
4） 部員支給品の補充管理（エプロン・ジャンパー・Ｔシャツ）

世話人を経験したことで言いたいことは、

＊ 一旦引き受けたことは、途中で諸事情があっても最後まで続けること
＊ 選ばれた世話人同士のチームワークを良く図ること
＊ クラブの運営を円滑に図ること

私、米寿です

北村 裕彦

くげぬま探求クラブ創立 25 周年祝賀会が昨年 12 月 4 日湘南クリスタルホテルで開かれ私は幹事からのご指名により乾杯の挨拶を致しました。

挨拶の中で当日都合で欠席の北岡さんに代わって引き受けたこと、私と北岡慶太郎さん、佐藤恒雄さんの 3 人が昭和 6 年生まれの未年でクラブの最高齢者であり来年は揃って米寿を迎えることを披露しました。来年と強調したのは漠然と米寿はまだまだ先のことだと思っていたからです。その際私の気持ちはそんなに早く歳を取りたくないという思いが潜在的にありました。然し正月が過ぎ新しい年を迎え今年はもう米寿を迎える年になりました。

満州事変の始まった昭和6年に生まれ日中戦争、太平洋戦争、敗戦を小学生、中学生で体験しその後の高度成長を経て東京オリンピック、大阪万博を経験、昭和を卒業、平成に突入バブル崩壊、阪神大震災、米国多発テロに続き東日本大震災、今年 4 月に平成を卒業する。この様に私の育った時代は戦争と平和，苦難と繁栄の歴史を刻んだ激動の時代でありました。

幸い今でも私は健康に恵まれ年齢を意識しないでクラブの部会活動(農園・公園)に参加し毎日を元気に過ごしております。然し、よる年波から足腰の衰えは否定できず階段の昇り下りが苦痛(危険)になって参りました。今まで見向きもしなかったエレベーター・エスカレーターの在りかを探し回っております。電車で遠出することが億劫になり東京へ出かけることが稀になりました。そこで有難いのは地元藤沢に多数の仲間がいることです。くげぬま探求クラブの部会が随時活動していることです。会員のみなさんどうか元気で米寿の会員をいつまでも可愛がって下さい。

私こういうものです　新入会員の自己紹介です。会員数は 50 名になりました

森 正孝さん

2 月の例会におきまして入会させて頂きました森正孝（もりまさたか）でございます。入会をご承認頂きまして有難うございました。

私は、昭和 24（1949）年 3 月生まれで、まもなく 70 才になろうという若輩者（当クラブでは…）でございます。京都に生まれ育ちましたが、就職後転勤を重ね、約 30 年前に鵠沼海岸に転居し、現在は鵠沼海岸５丁目に住んでいます。

こちらに転居して二人の息子が鵠南小学校に入学し、同校の小学生サッカーチーム「鵠南フットボールクラブ」に入団しました。私は学生時代にはハンドボールを行っており、自分で競技経験はありませんでしたが、息子たちの練習や試合を見学・応援に行きお手伝いしているうちに指導者となり、審判資格も取り、現在まで継続しています。（単身赴任による中断はありますが…）

鵠南小学校には小学生野球チームもあり、その指導者としてお付き合いのありました当クラブ会員の山田聡さんからお誘いを頂きまして、以前に当クラブのゴルフコンペに参加させて頂いたこともあり、今回入会させて頂くことになりました。

現在は、鵠南フットボールクラブの他には、鵠南地区の社会体育振興協議会委員としまして、地域の運動会である地区レクリエーション大会や夏休みの鵠南小学校プール一般開放業務に係わっています。

個人的には知識や技能は全く持ち合わせず、これといった趣味もありませんが、地域の皆様との交流が増えればと思い、入会させて頂きました。そのため、部会につきましてはこれから種々体験させて頂いた上で、決めさせて頂こうと思っております。

これからも諸先輩の皆様のお世話になりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

ビフォア・アフター

趣味に没頭せず「探求クラブ」を選んだのは大正解

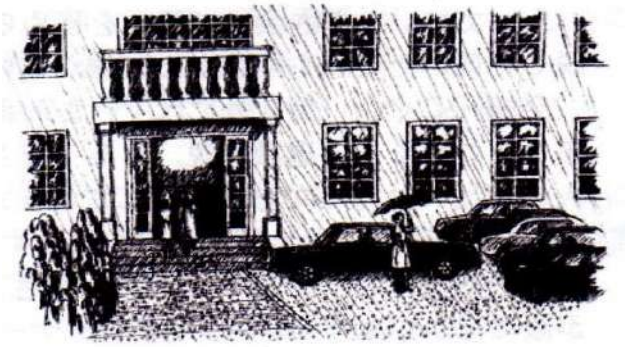
佐野 譲

平成 11 年、私は退職を 2 年後に控え、その後どのように過ごすかを模索していた。その有力候補は絵画、写真、スポーツ、モノづくり、音楽鑑賞などの趣味に没頭する毎日を送るというものであった。家内は、ボランティア仲間で探求クラブの会員でもあった知人からクラブの活動内容を聞いていた。「私が趣味に没頭する毎日」は「べったり自宅にいる老後」と理解した家内は、外に出て人と交流してほしい、と熱心に私にクラブへの入会を勧めた。当初はあまり乗り気ではなかったが、退職前でも土、日は時間が取れたので入会し、例会に出るとともにおもちゃの病院とサロン会に参加するようになった。

その間、気まぐれに藤沢市の写真コンテストに応募したら市長賞に入選し、藤沢市のある写真クラブから誘いがあり入会した。しかし活動日が重なり、おもちゃの病院の面白さがわかってきたので、写真クラブはすぐに退会し、その後は探求クラブに集中した。退職後は健康部会、探訪部会等にも参加するようになったが、おもちゃの病院には思い入れが強かった。壊れたおもちゃが治った時の子供の喜ぶ顔は何ものにも代えがたいものである。ある時、カナダ製の永らく故障で動かなかった長さが 30 ㎝ほどのラジコンで動くバスが持ち込まれた。仲間と共に試行錯誤し悪戦苦闘したが 3 か月ほどで治った時は本当にうれしかった。

私の趣味の一つに「モノづくり」があるが、おもちゃ修理により「趣味に没頭」の気持ちが一部満たされていることを感じた。多くのおもちゃを治してきた。私は自身の病後に手の動きが不十分で、思うように治せなくなってきたが、修繕方針やアイデア提供などでおもちゃの病院の支援を続けたいと思う。20 年前に退職に際し趣味に没頭せずくげぬま探求クラブを選んだのは大正解であった。

入会して 7 年後に世話人（代表）になった時に、ヤングハーツと共に行動していたあるグループと決別したため、メンバーが 3 人にまで減少したことがある。例会にて皆様に応援をお願いすると同時に、責任を感じて自らヤングハーツに入り、サポートし、数か月で体制が回復した。世話人や代表を経験したことは有意義であった。探求クラブに入会したおかげで、それまでは地元に殆ど知人がいなかった私に、50 人もの一緒に楽しく活動できる仲間が出来たことは本当によかったと思う。



ドイツ滞在中の病院にて空いているところに無断駐車したので出られなくなった。
（イラスト描きは趣味の一つ）

活動を通じて会が発展していくためには以下の三つが重要であると思う。

① 地域活動で貢献できている。
② 活動を楽しんでいる。
③ 平等、公平が守られている。

最近感じていることに世話人に対する向き合い方がある。私たちはもっと世話人にたいして敬意をはらい感謝の気持ちを持つべきではないかと思う。世話人も活動を楽しみ、平等・公平を感じられるようでないといけないと思う。

今後とも探求クラブの継続的な発展をサポートしていきたい。

クラブ短信

1）新世話人選挙

恒例の世話人の選挙が行われた。今回はベテラン会員から 2 名、それ以外から 4 名選出という、規約改正に伴う初めての選挙であった。2 年前と 4 年前の世話人選では全員入会間もない若手？会員が選ばれた。今回は 6 人の世話人中 4 人が世話人の経験者である。新しい試みの成果が期待される。

2）25 周年記念「くぐひ」特別号

従来の特別号は印刷会社に依頼し、良い装丁で発行されていた。この度は印刷、製本の仕事をわれら自身が行った。4000 枚、8000 ページの印刷・製本作業を 4 人の編集委員が 6 時間かけて実施した。おじさん軍団、おそるべし。

地域活動部会紹介

藤が谷公園愛護会

山田 聡

藤沢市立藤が谷公園は、江ノ電の鵠沼駅から4、5分、境川橋の近くにあります。藤が谷公園の脇の境川側道を歩いていると、子ども達やお母さん達が遊んだり、談笑しているのが目に飛び込んできます。その奥には四季折々のかわいい花が咲き、豊かな自然がなごみの空間となっています。

そこでは、月１回、第二日曜日に藤が谷公園愛護会のメンバーが集まって、植木の剪定、園内の清掃、砂場の管理等をしております。特に去年の夏は、梅雨がなく、７月から９月中旬まで例年より暑い日が続いたので、メンバーが水やりを例年より頻繁に行いました。

又、春秋には、近くの鵠沼めぐみルーテル幼稚園とキディ鵠沼・藤沢保育園の子ども達を交えて、お母さん達の協力も頂きながら花壇に花植えを行います。この作業はとても賑やかで楽しいものです。皆さんで花を植えたり、水やりをしたりして大いに元気をいただいております。

月１回の藤が谷公園愛護活動でうまい空気を吸を歩いていると、子ども達やお母さん達が遊んだり、談お待ちしております。

やもをの心得　その４

気ままな生活をエンジョイしているか

永利 文男

数年前、家内が突然亡くなった。一人で生活すると話しをする機会がほとんどない。ボケないためには話をする機会が必要と考え、探求クラブに入れて頂いた。入会後まもなく、やもを会に誘われた。それ以降、月に一回だが、やもを会で楽しい時間を過ごしている。やもを固有の話題があるのかもしれないが、自分達で料理をすることを除けば、普通の呑み会と大差ない様に思う。小生の場合、やもをにならなければ、探求クラブへの入会はなかった。何か妙な因縁を感じる。

人の寿命は女性の方が大分長い。しかも結婚するときは女性の方が年下の場合が多い。必然的に、やもめが大量に発生し、やもをがわずかに発生するということになる。希少価値があるから本誌でも取り上げられるのだろう。

「男やもめに蛆が湧く」という諺がある。男やもめは、世話をするものがいないので、自然に身の回りや環境が不潔になることと辞書にある。整理整頓、掃除等はサボっているので、家の中は雑然としているが、不潔にはならないよう極力気を付けている。それにしても、電気洗濯機がなければ、悲惨だろうなと思う。

ある同期会で、再婚は考えないのかと尋ねられたことがある。そんな煩わしいことはもう沢山だという趣旨の返事をしたように思う。新たに人間関係を築くことは大変だし、必要とも思わない。死ぬときは身辺はシンプルが良いと考える。やもを生活は、不便な面もあるが何をしても文句言われることはなく、自由気ままな生活ができ、むしろ薦めたいくらいだ。しかし、これにも条件があって、まあまあ健康で体が自由に動くということが必要だ。健康にだけはお互い気を付けよう。

気ままな生活ができる条件がそろっているようだが、果たして十分エンジョイしているだろうか。高齢でもあり、昨年心臓手術をしたこともあり、「無理をせず」を生活のモットーとしている。また先立つものも必要だしと色々と抑制が効いて、炊事、洗濯、買物、時々散歩、読書、探求クラブ活動と日常生活を羅列してみれば、結局はいたって平凡で取柄のない生活をしているように思う。

創立 25 周年記念行事

あなたのための健康講座

－スーパーシニアへの道－

極楽部会　嶋村 堯敏

昨年はじめに当クラブ 25 周年記念行事の募集があった際、極楽部会も参加の手を挙げました。当初は当クラブのメンバー向けの簡単な講座を考えていましたが、折角の機会なので、鵠沼地区の高齢者向けの講座にしようとの部会メンバーから提案があり今回のような形になりました。実行委員として極楽部会の中から池田修さん、小山さん、奥村さんに私を加えて 4 人で進めてきました。

かつて当クラブの周年事業の講演会開催の際に鵠沼公民館には費用の負担、会場の確保などをお願いしたことがありました。今回も公民館にはこのほかチラシ配布やポスター貼りつけ、藤沢市広報誌への掲載、参加希望者の受付などいろいろな面で助けていただきました。

一番の問題はテーマの選定です。普段から極楽部会で採り上げているテーマを中心に、部会の中での勉強の話よりもっと実践的に知っておきたい、あるいは高齢者が興味を引くだろうと思うようなものをいくつか候補に挙げ、最終的には藤沢市ケアシステム推進室との打合せの中で決まったのが今回の 3 つのテーマでした（オーラルフレイル、薬とサプリ、ロコモ予防と体力測定）。

講師や体力測定などをお願いするには謝礼が必要ですが、当クラブの懐具合は理解していましたので、極力費用がかからないように、チラシ・ポスター作成と配布、会場設営その他力仕事と講座のまとめは当クラブが担当、講師費用・講師とのテーマの調整・アテンドなどは藤沢市ケアシステム推進室、講師費用・会場確保・参加希望者の受付は鵠沼公民館にお願いするという共催企画になりました。

共催の相手方として鵠沼公民館はもちろんですが、当初は同様の催しを実施している藤沢市ケアシステム推進室、藤沢市保健所、湘南鎌倉病院、薬剤師協会などがあげられましたが、最終的にケアシステム推進室とテーマの調整を行い、歯科医師会の医師（第 1 日目）、藤沢市保健医療財団（第 3 日目）を紹介してもらいました。第 2 日目の講師は鵠沼地区の薬局を数軒回ってお願いしました。しかし消極的なところが多く、栄養士の派遣も可であること、講演のほかに血管年齢、骨の強度測定、健康相談などを実施してもらえるクリエイトにお願いしましたが、講師謝礼は、同社の地域貢献活動という理由で無料にしていただきました。

実際の講演の内容は基本的には各講師にお任せしましたが、その際の参考として、私たち素人が本当に聞きたいこと、基本的過ぎて聞くのに恥ずかしいと思われるかもしれないような質問を30項目ほど極楽部会で作り、講師にお渡ししました。この手の講演ではよくある総括的・抽象的な説明は省かれ、実際に役に立つ具体的な内容になったのは、事前に質問事項をお渡ししたことが正解だったのではないかと思います。

今回実施したような講座は高齢化が進んでいる地域では役所の方針もあってか、かなりの頻度であちこちで開催されています。藤沢市の広報、チラシなどを注意して見ていると良くわかります。

はじめは 100 人以上来たらどうしよう、などとつまらぬ心配をしましたが、なるほどこれだけ多くの回数の講座があれば 1 講座当たりの参加者数は限られるのだろうと安堵しました（今回は 1 講座当たりおよそ 40 人でした）。

「高齢者のための講座」などと銘打ってはじめた行事でしたが、よく考えてみれば自分のために企画したようなもので、お陰さまで個人的にも随分と勉強になりました。なお詳細な数字は例会資料やＨＰでご覧下さい。

くぐひ創立記念特別号

くぐひ制作部　編集人　塩川 昌男

創立記念行事の一環として「特別号」を編纂しこの 3 月に発行した。会員の当クラブへのかかわりや日頃感じている事等を 300～2000 字で自由に書くという趣旨で全会員に執筆を依頼した。48 人から寄稿があり、まえがき、あとがきを加え、A4 サイズ 60 ページほどの冊子にまとまり、3 月の例会で配布した。この特別号には各タイトルと執筆者の名前と共に全員、顔のイラストを加えた。

古手から新人まで各人各様の思いで書き綴られており、多様な探求クラブの雰囲気を醸し出しているように思う。新入会員にとっては大いに参考になるものと思う。今回は外部の印刷業者を使わず、自前で作ったため、140 部制作して総予算は 9 千円程度であった。皆様の執筆協力とくぐひ制作部のご協力に深謝。

～例会・各部会活動報告～

12月　December

○例会　1日　出席者42名　在籍者49名
○行事　①25周年祝賀会4日（火）　湘南クリスタルホテル　参加者62名(会員43名来賓7名ゲスト7名OB5名）②サンタの出前　4日（２+60）6日（2+40）10日（2+112）11日（2+100）
○世話人・委員会①世話人会25日　②くぐひ制作部12日7名96号原稿推敲、25周年記念特別号審議終了③HP制作部、メディア委員会　休会。
○鵠沼松が岡公園愛護会　2日11名　29日臨時活動　寒さの中清掃
○藤が谷公園愛護会　9日11(1)名　冷たい風の中清掃
○ヤングハーツ　5日幹事会、月初練習23（15）名　8日藤沢病院クリスマス会18（12）名　10日鵠洋児童館クリスマス会18（7）名　11日鵠生園（ホーム）20（11）名　21日午前ささえ橘7（4）名　21日午後藤沢病院（さくら棟）11（8）名
○おもちゃの病院　9/23日10(2)/7(1)名　来院12/10名　新患7/7名　退院引11/3件　当日完治2/2件
○子どもと遊ぶ会（鵠洋児童館）　22日8（1）名　子供15名母親2名スタッフ3名　ミニ門松作り
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム16日11（3）名　保護者7名　将棋の子供16名　囲碁の子供2名
○災害研究部会　7日8名　災害時のトイレ講演会紹介
○極楽部会　19日8名　健康講座ポスター、チラシ配布計画
○サロン会 休会
○健康部会 21日13（1）名　湘南海岸散策、海鮮飯
○探訪部会　休会
○カラオケ部会　18日7名　忘年カラオケ大会
○農園部会　2日5名かぶ収穫　20日6名大根収穫
○談話室 19日7名　健康講座チラシの紹介
○スケッチ部会 20日　5（1）名31年度計画作成
○デジタル情報部会24日16名写真の送り方共有の仕方
○ヤングブラザーズ　14日20（7先生2）名　22日21（9先生3）名　春のコンサート選曲
○近代史を語る会 13日17（6）名　昭和の時代7回
○企業研究部会 26日14(2)名　カップヌードルミュージアム横浜　（日清食品）
○なつかしの名盤愛好会　17日7名「メートル法」話題
○俳句の部会「似歌会」11日12名　兼題「塩鮭」「白髪」
○お菓子の会 休会

1月　January

○例会　5日　出席者43名　在籍者49名
○行事　健康講第1回　24日　37（16）名　「口の健康は笑顔を作る」
○世話人・委員会 ①世話人会29日②くぐひ制作部 9日11名97号第1回編集会議 ③25周年委員会、メディア委員会HP制作部　休会
○鵠沼松が岡公園愛護会　6日13名寒風のもと落葉はき
○藤が谷公園愛護会 13日9名　年末特別清掃の効果があった
○ヤングハーツ　9日幹事会、月初練習26名（15名）15日鵠生園（ホーム）20（11）名　18日藤沢病院（さくら棟）19（11）名
○おもちゃの病院 13/27日8/7（1）名　来院者14/16名　新患7/6名 退院5/5件　当日完治5/2件
○子どもと遊ぶ会　12日6名　男子5名女子5名　ウグイス笛
○鵠っ子囲碁・将棋　20日　9（３）名　囲碁の子供　3名　将棋の子15名
○災害研究部会　7日8（1）名　被災後の生活を立て直すためのヒント
○極楽部会19日9名　極楽部会のテーマ
○サロン会 24.25日　伊東温泉一泊旅行
○健康部会　14日13（2）名　藤沢七福神めぐり
○探訪部会　健康部会と合同
○農園部会　6日　5名　カリフラワー、大根収穫
○カラオケ部会　15日6名　新年会
○談話室 16日8名　クラブ規約改定案の提示
○スケッチ部会 17日5名　公民館でそれぞれ描く
○デジタル情報部会　28日　14名　インターネットの安全対策技術
○ヤングブラザーズ　11日新年会28名(9先生3夫人5)名　26日　22（8先生3）名　春のコンサート練習
○近代史を語る会 10日17（5）名 昭和の時代8回目
○企業研究部会 23日8（1）名　おりがみ会館　（ゆしまの小林）
○懐かしの名盤愛好会　21日11（2）名バッハとジャズ
○ 俳句の部会似歌会」8日12名　兼題「初春」「背」
○お菓子の会 メンバー不足で解散

2月　February

○例会　3日　出席者37名　在籍者49名
○行事　①健康講座第2回　7日45（26）名「薬とサプリメントの上手な飲み方」第3回　14日40（32）名「ロコモ予防講座」②ひょっこり鵠南島・豆まき　5（13）名　子ども35名　③ボウリング大会　13日11名　江ノ島ボーリングセンター
○世話人・委員会　①世話人会26日　②くぐひ制作部13日9名　第97号第2回目編集会議　15日4名25周年記念特別号の印刷、製本　③25周年委員会、ＨＰ制作部、メディア委員会　休会
○鵠沼松が岡公園愛護6日11名　松葉清掃
○藤が谷公園愛護会 10日 10名　寒中清掃活動
○ヤングハーツ　6日幹事会・月練習 19名（10）名　28日鵠生園（デイ）15（7）名
○おもちゃの病院 10/24日10(1)/14(2)名 来院13/13名　新患7/4名　退院3/5件　当日完治3/0件
○子どもと遊ぶ会　9日　「ぶんぶんごま作り」9名　子ども6名　大人1名
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 17日8(2)名　囲碁子供1名　将棋子供19名
○災害研究部会1日6名　3.11避難所運営で学んだこと16日2名片瀬公民館で展示と実施
○極楽部会　20日9名「人生100年時代を生きる」鑑賞
○サロン会 16日12（1）名　おでんパーティ
○健康部会　22日14（3）名　北鎌倉から六国見山経由鎌倉宮
○探訪部会　休会
○カラオケ部会19日7（1）名　ジャズ・バンドマスター登場
○農園部会　休会
○談話室 20日8名　「成年後見人制度」ついて
○スケッチ部会 21日　4（１）名　室内でスケッチ
○デジタル情報部会25日14（2）名　Bluetoothの応用
○ヤングブラザーズ　8日23(9先生3)名　23日23(8先生3）名　大ホールで春コン集中稽古
○近代史を語る会　14日16(6)名　昭和の時代9回目
○企業研究部会27日6（1）名　熊澤酒造見学、レストラン「蔵元料理天清」コース料理とお酒
○なつかしの名盤愛好会 18日9（2）名　未開封レコードの鑑賞
○俳句の部会「似歌会」12日11名 兼題「毛布」「腹」

私の趣味

粗放的園芸（＜手抜き＞庭いじり）

岡林 哲夫

「くぐひ制作部」のＫ氏から「『くぐひ』に掲載するので『私の趣味』を投稿するように」と言われ、深く考えもせずに引き受けたのが間違いであった。考えてみれば私には趣味と言えるようなものは無い、というか無いようにしてきた。若い頃に軽はずみにのめり込むようなこともあったので淫するような趣味は持たないことにしてきた。

しかし、引き受けた以上はと思い趣味らしいものを捻り出したのが「＜手抜き＞庭いじり」と「中島みゆき」だ。後者の話は別の機会にすることとして、まずは＜手抜き＞庭いじりを書く。わざわざ＜手抜き＞を強調するのは手間をかけずに庭に癒やしの植物を生やしておきたいからだ。このため、基本的には宿根草を中心に花壇を構成している。

ヒガンバナ

庭の最も目に付くゾーン（約1.5坪）は常に緑がある状態にしたいので、ヒガンバナ（彼岸花）・シラン（紫蘭）の球根・偽球茎を植えてある。春になるとヒガンバナの葉は枯れて、シランの芽が出てきて葉と花が楽しめる。夏の終わりにはシランの葉は枯れ始めヒガンバナの花茎が突然現れる（写真）。ヒガンバナの花が終われば葉が翌春まで地表を覆う。真冬でも地表で緑を楽しめるヒガンバナは有り難い。この組み合わせは放置しておいても季節がくれば主役が勝手に交替してくれるし、両者とも葉の密度が濃いため雑草の繁殖が抑えられるので気に入っている。しかし、昨年は暑さのせいかヒガンバナの花茎が早く現れ、シランの葉からヒガンバナの花が出ているという珍妙な状態になった。

この方式の欠点は球根・偽球茎は旺盛に増殖するので数年に一度は掘り返し間引きをしなければならないことだ、完全な手抜きができる施肥の条件は見つかってはいない。

他のゾーンにはシャクヤク等を植えてある、シャクヤクも手抜きで育てているが、摘蕾・支柱立て・雨よけだけは気を付けている。シャクヤクと交替すべき多年生植物は未だ見つかっていない。クリスマスローズも試みたが株間が詰まりすぎるので別植えにした。他には数年前から植えているグロリオサは雑草化したヒメヒオウギとハナニラとの交替にしている。

以上のように、＜手抜き＞で庭いじりをするための工夫をすること、つまり粗放的園芸が私の趣味ということになる。

クリスマスローズ

姫ヒオウギ

シラン

ハニナラ

グロリオサ

偽球茎

編集後記　2年に一度の世話人改選期となり、本年4月からの新しい体制が決まった。巻頭には新世話人代表の奥村さんが就任の抱負を掲載。この度世話人を退く皆さんからは新世話人へのエールが贈られた。今年は北岡、佐藤、北村の3氏が元気に米寿を迎えられ、北村さんに投稿して頂いた。久々に若手の森正孝さんが入会し、自己紹介記事を。入会ビフォア・アフターでは入会20年を迎える佐野さんが思い出の数々を綴った。部会紹介の項では園児との花植え会で毎年賑やかな「藤が谷公園愛護会」を山田さんが紹介。やもをの心得（その4）には永利さんが登場。創立25周年記念行事の締めとして3回にわたって開催された健康講座につき嶋村さんが、くぐひ特別号発刊について塩川が紹介。「私の趣味」欄には岡林さんが登場し「粗放的園芸」を披露。身近な草花を写真付きで紹介した。（塩爺）

会報　くぐひ　第97号
2019年4月1日
発行　くげぬま探求クラブ
発行人　奥村　誠
編集人　塩川　昌男